

# 平成24年度学力向上の取組について

函館市立神山小学校

学級数 15

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

○ともに学び とともにやさしく ともにかがやく子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

## 取組の概要

### 1 取組のきっかけ

学校評価の結果から、「元気よく挨拶ができる」というよさと、「自分の思いを言葉で表現することが苦手である」という課題が明確になった。また、学習指導要領の配慮すべきこととして、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」「言語活動の充実」が重視されている。

そこで、学習内容の定着を図ること、言語活動を充実し思考力・判断力・表現力の育成をめざし取り組みを行うことにした。

### 2 取組の位置付け

学力向上委員会（教務部2名含む）及び研究部が中心となって取り組みを進めている。

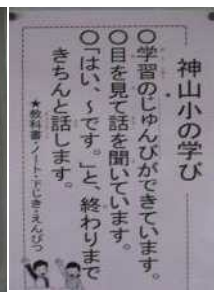
### 3 取組の方法

#### ア 言語活動の充実

校内研修で、昨年度は国語科において、今年度は各教科等において、言語活動の充実をめざした、校内授業研を行っている。授業づくりとともに、右にある「話し方の基本」を低・中・高学年それぞれで考え、教室に掲示し、児童に基本的な話し方が身に付くようにしている。



話し方の基本



学習の約束

#### イ 学習内容の定着

学校生活のリズムを整えること、授業へ取り組む姿勢は、学習内容の確実な理解のための基盤であると考えられる。そこで、「神山小の学び」という学習の約束を、教員全体で共通理解を図った後、どの学年でも同じように指導することにした。また、常に意識できるよう各教室等に掲示している。

## 取組の成果と課題等

### ○ 取組の成果

#### 取組アについて

継続的に取り組むことで、話し方や表現方法が身に付いてきた児童が増えてきている。しかしながら、この取組は今年度から本格的に始めたものなので、1年間で十分子どもに身に付くものではない。1年生から6年生まで6年間で指導し、積み重ねていかなければならない。

#### 取組イについて

学校で統一させているため、誰がどのクラスに入っても同じように対応でき、児童も安心して授業に取組ことができている。これも継続的に指導していかなければ効果が見られないものなので、教職員の共通理解を十分に行いながら進める必要がある。また、約束の項目について、改善していくことも検討中である。

### ○ 教育課程検証の方法

#### ア 学校評価結果による検証

- ・自己評価結果
- ・保護者アンケート結果
- ・児童アンケート結果
- ・学校評議員からの意見

#### イ 週毎の指導案による検証

#### ウ 随時の検証

- ・管理職による各クラスの授業参観
- ・日常実践からの改善意見